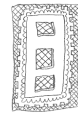


## 国宝キトラ古墳壁画「白虎」



奈良県明日香村にあるキトラ古墳壁画体験館「四神の館」で「白虎」が五月二十日から公開されている。見学には予約が必要だが、空いていれば入館できるとのこと。日曜日、一時間三十分待ちで入ることができた。十人ごとに展示室に案内され、約十分、間近で見た。キトラ古墳は七世紀から八世紀初めに造られ、直径約十四メートル、高さ約三メートルの小さな二段の円墳だ。被葬者は未詳。石室内は東壁に青龍、南壁には朱雀、西壁は白虎、北壁は玄武が漆喰の上に繊細な筆づかいで彩色され描かれている。また、天井には天文図が描かれている。これらの壁画は順次公開されている。今回の「白虎」図は縦二十五センチ、横四十センチ程であり、今にも飛びかかりそうに生き生きと描かれている。しなやかな肢体、尻尾が後脚に絡まって真上に跳ね上り、口を開けて牙を見せているが、なぜか目がかわい。写真で見ると違い本物は確かに迫力がある。ぜひ明日香を訪れ実物を見ていただきたい。

(米田郁夫)

## 「没後40年 朝井閑右衛門展」 (2023・4・22～6・18 横須賀美術館)



横須賀久里浜に生まれ育った人に誘われて、朝井閑右衛門絵画展を鑑賞した。その名前がいい。「朝から閑」と自嘲して名乗りはじめたという説もあるようだが、そのセンス、いいなあ、閑右衛門さん。

大作『丘の上』は、踊る女のドレスの揺れ具合から陽気な音楽が聞こえてくる。楽器を奏でる男たちの表情はうつとりとしている。デカダンスの匂いが少し漂うけれど、そこに陥らないのん気さがある。絶筆『薔薇(嘉靖青花唐子紋中壺)』は圧倒的だ。塗りかさねた絵の具の分厚さ。薔薇はカンバスの中で画家だけの薔薇になる。しかし時を経て鑑賞するわたしの薔薇にもなる。命と時間が厚く塗り込められている。閑右衛門は生前、個展も開かず画集も出さなかつたという。個性を貫いたのだ。

横須賀美術館は、目前に東京湾が広がり、某CMの撮影地にもなった。鑑賞した六月十日は薄曇りで、屋上に立つと足もとから空と海が繋がっていた。写真から幻想への飛躍が心地よい展覧会であった。

(三浦陽子)